

# 世界史研究推進委員会

共同研究 「高大連携の試み」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

横浜国立大学東高校 智野豊彦

昨年の三月に『世界史をどう教えるか―歴史学の進展と教科書―』（山川出版社）が発刊され、五月の社会科学部会春季研究大会で各校に配布できました。数社の新聞社の書評で取り上げられ、現在も問い合わせを頂いています。また他県では読書会を行っている研究グループもあると聞いています。神奈川の先生方も、是非教材としてご活用していただければ幸いです。

さて、二十年度も、大阪大学大学院文学研究科の桃木至朗教授を中心とするメンバー四名と共同で、再び「高大連携」特別授業を行いました。場所は、昨年と同様に栄光学園、テーマは「近代アジア世界をどう教えるか」。栄光学園の生徒だけでなく、様々な高校の生徒が受講し、他都府県の教員や大学・教育関係者の方にも参加して頂きました。また、8月6日の午後には、すぐそばにある中世城郭の玉縄城址を中心にフィールドワークも行うことが出来ました。授業者は以下の通りです。

八月四日（月）

①「この分野における大学入試の傾向」（NPO神奈川歴史教育研究会・小林克則）

②「日中双方から見た政治・外交史」（大阪大学・大坪慶之、後藤淳史）

八月五日（火）

①「アジアの中の日朝関係」（栄光学園・早川英昭）

②「グローバル経済の中の東アジア」（大阪大学・桃木至朗、秋田茂）

田茂

八月六日（水）

①「オスマン帝国と近代の出会い」（東・智野豊彦）

②「西アジアにおける帝国主義」（逗子開成・杉山登）

八月七日（木）

①「パレスチナ問題」（川崎工業・澤野理）

②「アフリカにおける帝国主義の進出」（藤沢総合・石橋功）

横浜市立大学において「大学生向け一般教育としての世界についてのシンポジウム」が、一月二日（水）に行われ、世界史研究推進委員会のメンバーが参加しました。これは、大学一年生に近現代史の基礎を教える後期一四回の授業で、最終日の授業（「グローバルイノベーションを考える」、市大・金子文夫）の授業見学と、大学・高校の教員の意見や情報の交換会でしたが、世界史を学んだはずの学生たちの知識と大学教育との関連性を知る上で非常に興味深い機会でした。

また、社会科学部会秋季研究大会では、「アフリカ史をどう教えるか」（藤沢総合・石橋功）、歴史分科会春季研究大会では、「近世ヨーロッパ史を再構成する」（元上矢部・手塚尚）「フィッシャー論争」（栄光学園・福本淳）の発表が行われました。

最後に、今年度も会場校をはじめ、多くの方々のご理解と協力に感謝しております。ありがとうございました。